



12月31日

越年マラソン

4年ぶりに開催された稲津町民越年マラソン。大晦日夕方に雨が降り開催が危ぶまれましたが、137人(男性95人、女性42人)のランナーは午後11時55分銅鑼の音と共に一斉にスタートしました。稲荷神社をスタートし小里八幡神社・萩原八幡神社を回る3.8kmを家族で子どもに合わせて走る親子、入賞を狙って走る人など、走りながら新しい年を迎えました。



【男子の部】			【女子の部】		
優勝	土本佳唯斗	13分17秒	優勝	西尾祐賀子	19分35秒
準優勝	上田 蓮	15分02秒	準優勝	安藤 胡桃	20分01秒
3位	水野 純也	15分05秒	3位	間瀬奈緒美	20分32秒

(敬称略)



1月5日 第15回 みんなで楽しいお正月

日本古来のお正月遊びを体験してもらおうと、毎回工夫を凝らして今年で15回目。4年ぶりの開催で今年はジャンボかるた大会！10年前に職員が制作した「いろはかるた」と町民の皆さんが詠み描いてくださった「狂俳かるた」で熱戦が繰り広げられました。

かるた大会の後には、地震と火事を想定した避難消火訓練をしました。子ども達は机の下に隠れ、職員の誘導に従い避難しました。

昼食は七草粥とぜんざいをお腹いっぱいいただきました。中学生を含めたボランティアの皆さん、ありがとうございました。



1月20日 大人の社会見学！ 参加して良かった！勉強になった！社会見学

あいにくの雨模様でしたが、33名全員が元気に出発。バスの中は笑い声が絶えず賑やかでした。

名古屋市港防災センターでは、震度7地震の揺れを体験し、伊勢湾台風の映像を視聴。参加者は「防災について、話で聞くのと実際に体験してみるのでは全然違う。今後起こりうる災害に対し備えが必要と実感しました。」と話してみえました。

白だし工場の機械類はピカピカで、衛生的に製造されていました。見学の後、売店で試食をし皆さん購入してみえました。お宅での料理レパートリーも広がったことでしょう。

帰りには、「4年ぶりのバスでおでかけ、最高に楽しかった」「来年も企画して欲しい」とお声をいただきました。



地震体験 震度7



白だし試飲



ステークランチ

人口	12月1日現在		1月1日現在		増減
	男	女	男	女	
	2,061	2,089	2,060	2,084	-1
計	4,150		4,144		-6
世帯数	1,729	世帯	1,728	世帯	-1

	不燃ごみ	ビン・缶・ペットボトル・紙類・古着
小里	2月15日	2月22日
	3月14日	3月26日
萩原	2月14日	2月21日
	3月13日	3月25日

ii-nuts!!ギャラリー

14日~20日まで
学用品展示予定

よみがえるレコード展

4年ぶりにレコード展が復活しました。洋楽、邦楽、フォーク、ロック、Jポップなど1960年代から1980年代を中心とした様々なジャンルのレコード約3000枚がフォークvillage開催日(2月11日)まで展示されています。

懐かしいプレーヤーで、懐かしい音を体感してください。



2月の稲津さん

「瑞浪市二十歳の祝典」実行委員を終えて

後藤 杏さん (20歳) 中洞



兄が実行委員だった経緯があり、声がかかりました。悩みましたが、委員の中に友人もいたので引き受ける事にしました。舞台練習では緊張しましたが、実感は湧かなかったです。実行委員をやって友達が増えた事と、人前に出る事が苦ではなくなった事はよかったです。

18歳で成人にはなったけど、取り立てて何もなく周りの環境も変わらず、20歳の方が「おめでとう」を言ってもらったり、同窓会をやったりして成人の実感があります。

今年専門学校を卒業して、整体師になります。就職活動の中で自分に一番向いていると思ひ決めました。

今まで苦勞をかけた分就職したら親に頼らず、感謝の気持ちを持ちつづけたいと思っています。

1月7日 新しい門出 二十歳の祝典「慶瑞式」



テーマは

『星彩』

令和4年4月1日から民法改正により成人年齢が18歳に引き下げられましたが、瑞浪市では引き続き20歳を対象にして式典を行っています。

二十歳の祝典実行委員は企画・司会・運営まで行いました。稲津の実行委員3人に式典を終えた今の気持ちを漢字1文字で表現してもらいました。



井戸麻瑠さん(須の宮) 「奏」

音を奏でる、成し遂げるという意味があります。

これまで多くの人と出会ってきました。20歳を過ぎると就職をしたりして、更に多くの人と出会います。オーケストラに例えてみます。オーケストラの人数が少ないより多い方が、演奏した時に迫力や感動が増します。自分が死ぬ時に最高の演奏ができるようにこれから就職をして様々な人脈形成をしていきたいです。他にも自分の夢は多くあるのでできるだけ成し遂げたいと思います。



右が井戸さん

後藤杏さん(中洞) 「感」

これから新生活が始まる事で親のありがたみを実感し、どんなときも感謝の気持ちを忘れずに頑張っていく。

自分が独り立ちして、やりたいことにどんどんチャレンジしていき、たくさんの方に感動を届けたい。という思いがあります。



左が後藤さん

水野向陽さん(釜糠) 「新」

学生が終わって新しい経験が増えていくから、新しい気持ちで頑張りたいと思います。



中学野球部卒団式 右から4番目が水野さん

音楽のまじ

館長レポート

2

2月11日山口村長を中心とした「なつフォーク」が開催される。平成22年に産声をあげたこのイベントも今年で15回を迎える。稲津町民だけでなく町外からも多くの観客が集まる大きなイベントである。稲津が「音楽のまち」と言われる所以かと思う。「フォーク」の開催前には稲津公民館に3000枚を超えるレコード盤が展示される光景は圧巻であり、大半のアーティストが分かってしまう。時代をタイムスリップした気分になってしまう。今は音楽配信やCD(コンパクトディスク)の時代であるが昭和の時代はレコード盤真ん中に穴があったためドリフターズ盤ともいわれた。蓄音機は自分の針を乗せる緊張感、いわゆる「コンポ」と言われる時代があったことが懐かしい。

この「なつフォーク」の母体となるIMC(稲津ミュージッククラブ)があります。公民館短期講座によるギター・ウクレレ教室などの講師を努められた山口村長の功績があればこそ、そして当初のメンバーだった小学生たちが成長しても音楽に携わる。音楽に携わる人口のすそ野の拡大に繋がったことは容易に想像できる。

これからの「なつフォーク」が毎年開催され、多くの人の笑顔が見られることを期待したい。